# 羊ヶ丘養護園安全委員会だより

羊ヶ丘養護園　VOL. 35平成31年3月28日　発行者　山川

## 第44回安全委員会が3月11日に開催されました。

今回行われた定例安全委員会では、平成31年1月から2月28日までに起きた7件のケースの報告をしました。7件の内6件が男の子の暴力で、1件が女の子の暴力でした。
また、平成30年度の安全委員会対応件数は58ケース（平成31年2月28日現在）となっています。来年度は暴力件数0件を目指しましょう！…そう掲げたいところですが、実際には小さいことでイライラしてしまったり、我慢することが出来なくて暴言暴力へとつながることが多いです。今年度は、みんなでどうすれば暴力を振るわなくて済むのかを考えながら、昨年度よりも暴力件数を減らせるように頑張っていきましょう。

平成最後の定例安全委員会は、澤委員長より渋谷で起きた施設を退所した児童の悲惨な事件や、子どもが被害にあう事件などがメディアで報道され、その裏側に暴力がある事が大きな問題であることを痛感しましたとお話があり、羊ヶ丘で取り組んでいる安全委員会方式は、子ども達の成長と社会に出た時に、暴力ではない解決方法を身に付け、適切なコミュニケーションを取れるようになって欲しいという、願いが込められている関わりであると実感していますとメッセージを頂きました。

### ～當眞千賀子先生の論文より～

九州大学大学院人間環境学研究院教授
専門は発達心理学

2016年11月号　教育と医学
子どもの心の安全基地を育てる～アタッチメントめぐって

**護り護られて生きる**
**「アタッチメント」の活かし方より**

子ども暴力に対して「叱られることで護られる」と感じながら反省し学ぶことができるような愛情のある毅然とした叱り方・論じ方を工夫し身に付けることも、私たち大人が引き受けるべき課題ではないでしょうか。この世に生まれてきた子供の一人ひとりが、「護られることへの信頼」を育むことができるよう、そして、「生まれてきてよかった」と感じることができるよう、**大人として、知恵を分かち合い、力を合わせて、着実に歩みを進めていきたいものです。**

今年の3月には、長い間、住み慣れた園を巣立った子が多く、4月には、新しい子ども達と職員が当園で生活することになります。平成31年度は、新しく元号が変わる年になります、当園の安全委員会の取り組みも、初心に戻り見直しの時期だと思います。安全委員会で対応したケースを子ども達と職員が共有する機会をたくさん持ち、子ども達には、暴力でないかかわり方を考える機会、職員は、課題の解決に向けて協働する力とスキルアップが出来ることを目標に、皆で助け合いながら学びを深めていきたいと思います。

**當眞先生の子の一説が、私の実践のよりどころになっています。知恵を出し合う、そして力を合わせることが子どもたちの幸せにつながる事を信じて子ども達のケアに当たりたいと日々考えています。**
「暴力をしない・させない羊ヶ丘」のスローガンに向かって頑張ろう！

園長　　大畑　和子

平成30年度、羊ケ丘養護園では多くの子ども達が卒園を迎えました。安全委員会ができて8年、暴力はどうしていけないか、トラブルを正しく解決するにはどうすればよいか、そんな安全委員会の基盤を職員と共に築いてきた子ども達です。卒園する子どもの中には安全委員会で護られる経験をしたり、叱ってもらう経験をしたことで職員に本当の意味で「向き合ってもらえた」と感じている子どももいました。この先社会へと出て生活をしていかなくてはならない子ども達ですが、その生活の中に私たち職員が関わることは少なくなっています。この先様々な体験をし、困難にぶつかることもあると思います。そんな時には羊ヶ丘養護園の生活で学んだ事、安全委員会で得た経験がきっとこの先の社会生活で役に立つことと思います。私たち職員は今いる子ども達が社会へ出た時、少しでも困ることが無いよう手当をし、卒園した子ども達へはアフターケアとして、繋がりを持ち続けることが大切になっていくのではないでしょうか。この先も羊ヶ丘養護園で生活する子ども達、そして卒園生の心のよりどころとして存在し続けるような、そんな羊ヶ丘養護園であり続けたいと思います。

児童指導員　山川　裕子

当園は小規模化となり3年、少人数の子ども達の生活が作られてきました。今年度は多くの児童が社会にでることにより、これから新たな子ども達が施設で生活し、児童と職員間の関係が構築される中で、いかに安心安全な生活作りを子ども達と一緒に取り組んでいくか、児童には暴力ではなく話し合いで解決できるように指導していきたいと思います。

指導部長　　神田　知幸